

# 哲学・倫理学の輪郭を(ざっくり)つかむための読書ガイド

## 2018 春改訂版

### 1 事典・用語集

- 永井均ほか編『事典 哲学の木』(講談社, 2002)
- 廣松渉ほか編『岩波哲学・思想事典』(岩波書店, 1998)
- 大庭健ほか編『現代倫理学事典』(弘文堂, 2006)
- ジュリアン・バジーニ/ピーター・フォスル『哲学の道具箱』(共立出版, 2007)
- ジュリアン・バジーニ/ピーター・フォスル『倫理学の道具箱』(共立出版, 2007)

事典類は必ずしも買う必要はないが、存在を覚えておくこと。〈道具箱〉シリーズは初心者向けのキーワード集だが、わかりにくい用語のイメージをつかむのに最適。

### 2 哲学・倫理学の諸テーマとその入門

- 野矢茂樹『哲学・航海日誌』〈1〉〈2〉(中公文庫, 2010)
- 麻生博之・城戸淳編『哲学の問題群 もう一度考えてみること』(ナカニシヤ出版, 2006)
- 飯田隆『新哲学対話: ソクラテスならどう考える?』(筑摩書房, 2017)
- ジェームズ・レイチェルズ『新版 現実をみつめる道徳哲学』(晃洋書房, 2017)
- 伊勢田哲治『動物からの倫理学入門』(名古屋大学出版会, 2008)
- 品川哲彦『倫理学の話』(ナカニシヤ出版, 2016)

### 3 学説史・個別の哲学者たちについて

- 貫成人『図説・標準 哲学史』(新書館, 2008)  
あっさり目だが読みやすい。著者は哲学史の入門ガイドを数多く出していてどれも面白いが、これがスタンダードだろう。まずはこれから読んでみることを勧める。
- 『哲学の歴史』全12巻+別巻(中央公論新社, 2007-2008)  
西洋哲学史に登場する主要な哲学者がほぼ全て網羅されているだけでなく、近年の研究状況を反映した記述になっている。巻末の文献ガイドが非常に役に立つ。専門的に研究をしたいひとは必携。
- 堤林剣『政治思想史入門』(慶應義塾大学出版会, 2016)  
倫理学の歴史を学ぶには政治思想史の知識もあった方がよい。この本はルソーまでしか扱っていないが、その分一章ごとの密度が濃く、二次文献の情報も充実している。
- 柘植尚則『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』(梓出版社, 2016)  
プラトンからロールズあたりまで、高校倫理で大きく取り上げられる哲学者の思想の概説書。基礎的な

人名や概念の学びなおしに最適。

## 4 現代の哲学

- 田辺秋守『ビフォア・セオリー 現代思想の争点』（慶應義塾大学出版会, 2006）  
20世紀後半以降のフランスやドイツの現代思想や批判理論は多くの前提知識を必要とする難物だが、この本は整理が行き届いており、実際に現代思想家の本を読む前の下図を提供してくれる。
- 戸田山和久『哲学入門』（ちくま新書, 2014）  
新書にしては分厚い量で、かなりハードな内容だが「現代哲学」の問題群と考え方がよくわかる。
- 佐藤岳詩『メタ倫理学入門』（勁草書房, 2017）  
倫理学の初学者はメタ倫理学でつまづくケースが多いが、その多くの疑問にこの本は答えてくれる。
- 植村玄輝・八重樫徹・吉川孝編『ワードマップ 現代現象学』（新曜社, 2017）  
単に現象学の入門書というだけでなく、現象学を通した哲学入門を意識して書かれている。
- 瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣, 2014）  
法哲学と題されているが、現代の政治哲学や社会哲学と関連する部分も多い。質の高い教科書。

## 5 勉強法・アカデミックスキル

- 戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』（NHK ブックス, 2012）
- 伊勢田哲治『哲学思考トレーニング』（ちくま新書, 2005）
- 小野田博一『13歳からの論理ノート』（PHP 研究所, 2006）
- 大出敦『クリティカル・リーディング入門』（慶應義塾大学出版会, 2015）
- 森靖雄『大学生の学習テクニック』（大月書店, 2007）  
「大学の授業は高校までとは違う」ということを受験生や大学新入生はうんざりするほど言われるが、具体的にどう違うのかということのをこれらの本を読みながら自分で考えてほしい。

## 6 本の選び方

- 日本の新書は本当に玉石混淆で専門外のひとがとんでもないことを書いていたりする。自分の感覚だと、中公新書=NHK ブックス>ちくま新書=岩波新書>講談社現代新書 という順で良書が多い。講談社現代新書はやたらに数が出ているが、本当に玉石混淆。これ以外の新書(角川、PHP、文春など)は勉強目的で使うのはかなり慎重になる必要がある。その他、海外の有名な入門書シリーズの翻訳である〈一冊でわかる〉シリーズや〈哲学がわかる〉シリーズ(いずれも岩波書店)もお勧めできる。
- 大学生がある分野について基礎知識を得たい場合、まずはつまらなくても教科書を読んでみて、そこについているブックガイドを参考に読んでみるのが重要。良心的な教科書はブックガイドも充実していて、初学者向けから中級者向けまでフォローしているはず。その際の教科書は出来るだけ新しいものを選ぶ。分野にもよるがだいたい2000年代より後のものの方がいいだろう。
- どんな分野でもそうだが、卒論を書くためには新書や入門書だけではなく論文を読んでもることが大事。論文というと敷居が高そうだがテーマが絞られている分、慣れれば書籍よりもずっと読みやすい。cinii という web サイトの使い方や図書館のリファレンスサービスの活用法を早めに覚えておくと効率が良い。